

中田久恵 選 投稿数22首

錦秋の光射し込む窓ならばしたためる文雅やかなり  
 (評)一読してなごみ素敵な短歌であらうかと身の震を憶えました。秋と季節にふさわしく「したためる文雅やかなり」今月の秀歌である。古来手紙は人間のあらゆる喜怒哀楽を練りしてきた。又秋空に飛来する雁は懐かしい人の消息をもたらす使いとされて来た。「長月その初雁の使ひにも思ふ心は聞こえぬかも」と万葉集にもある。「雁の使」とは手紙のことである。昨今メールが瞬時に地球を巡る時代であるが、肉筆でつづる手紙には、電子時代にも失せぬ存在感と役割があると思う。又血の通ふ人間の暖かさと語りかこには息づいてる。新井愛子さん、曾孫の五歳の祝いは結句に未来とまよくと詠み期待と喜びが身の内にあふれ折りの短歌であった。

袴つけいとしき曾孫凜として五歳の祝ひ未来ときまめく  
 趣味の友と過ごす一日に心足る野を渡る風楽を奏でて  
 復興を優先と文字掲げつつ進まぬ行政に冬の足音  
 黄葉のいちよう並木にたたずめば気分はいつか外国の街  
 天皇と同齢われは両陛下のしげきご公務に御身氣つかう  
 年ふるごと形移ろふ武甲山天より牧水いかに見ゆらむ  
 母に似し叔母と語りて心相くわが娘の様と言はるるも嬉し  
 夢にたつ亡母はその都度櫻がけ今も脳裏に残る面影  
 月待ちの会に誘はれて寺訪ね心丸くし数珠つくりをり  
 紺碧の空を彩る木の葉たち一葉二葉と落ちる運命か  
 松手入れ時折見上げるその姿樹勢漲り愛しさつものる  
 白き齒の頭をふたつ覗かせて向かひの赤子まあよく笑ふ  
 年の瀬の小春日和となりけり餅つく杵の音のなつかし  
 地平線丸く見えたるセキネップ太平洋に定置網引く

皆野 新井 愛子  
 三沢 長谷河ソノ  
 皆野 根岸 詩子  
 三沢 鈴木 貞恵  
 三沢 眞下 杏子  
 皆野 打木 昭広  
 三沢 浅見 豊子  
 三沢 新井 叶子  
 皆野 新井 民子  
 皆野 保科 従道  
 皆野 関根 助市  
 皆野 引間 万亀  
 皆野 加藤マリ子  
 皆野 戸塚喜久雄

引間豊作 選 投稿数23句

かぶりつく蜂屋の熟柿手に余る  
 (評)熟柿とは紅く熟した柿のことである。一般に渋柿は紅く熟して甘くないと甘くないから、熟柿にして食べる場合が多い。蜂屋は渋柿で、果実は長楕円形で先はとがり大きいので、一口で食べきれないことを「手に余る」と表現し、適切な描写となっている。衣被は、里芋を皮つきのまま茹であげたもので、皮はつるりと剥け塩をつけて食べる。きぬかづきは、きぬかすきからの転訛で、平安朝以来、外出の際婦人は小袖を頭から被って顔をあらわに出さなかつたことに由来しよう。山女は通草の別称である。手づくりの味噌と惚れあう衣被  
 一人つ子しきりに回す木の実独楽  
 三沢 鈴木 貞恵  
 秋の山熊よけ今は電子音  
 上日野沢 四方田利男  
 朝顔棚和洋ともども彩競ふ  
 三沢 新井 弘延  
 洋蘭のニューと出た芽の冬囲  
 三沢 澤野 恒平  
 生きる森山女割れて小鳥来る  
 金沢 田中 康穂  
 秩父路に銀杏色づき秋アカネ  
 下日野沢 新井 進  
 小鳥来てみやげ話の早口に  
 三沢 眞下 杏子  
 境内の奥の日だまり返り花  
 皆野 市川 岳樹

皆野 引間 千鶴

俳句・短歌を募集  
 作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して  
 総務課へお寄せください。  
 1人1句、1首に限ります。  
 8日必着



るりかちゃん  
 原区 齊藤 幸良さん  
 さとみさん

甘えん坊でのんびりなるうちゃん。  
 ゆっくり大きくなあれ☆



采那ちゃん  
 上大浜区 黒澤 雅人さん  
 奈美さん

ぬいぐるみで遊ぶのが大好きな采。その笑顔が大好きだよ！



愛ちゃん  
 駒形区 中野 憲幸さん  
 優美さん

いつもニコニコな愛ちゃん。元気に育ってね！

1歳のお誕生日おめでとう



凜和ちゃん  
 上三沢区 関根 康秀さん  
 麻樹さん

いつも可愛い笑顔がありがとう♡ 姉妹仲良く元気に育ってね！



桜羽ちゃん  
 下原区 黒沢 武史さん  
 杏美さん

お兄ちゃんといっぱい遊んで、優しく元気な女の子になってね♡



※満1歳の赤ちゃんを募集します。1月号の締め切りは、12月10日(火)まで。ホームページからも応募できます。